

グローバル人材育成プログラム に参加して

田 中 優

Suguru TANAKA

機械システム工学科 3年

1. はじめに

8月11日～29日の約3週間でアメリカ、カリフォルニア州のシリコンバレーで行われたグローバル人材育成プログラムに参加しました。このプログラムは「世界のものづくりを支えるグローバルな視点を備えた科学・技術者の育成」を掲げ、英語コミュニケーション能力とグローバル実践力を備えた人材の育成に取り組むことを目的としています。そこではアメリカのシリコンバレーの企業で実習をおこない、グローバルな視点を養うとともに大変貴重な経験を積む事ができました。企業の見学やシリコンバレーで働く日本の方々の講演を聞き、実際に企業で2週間実習を行うことで、世界で働くにはどのようなことが必要でどのようなことが求められるのかを考えました。

2. 目標

私はこれまでの課外活動などの経験を通して、海外で働く人の価値観や考え方は国内で働く人のそれとは異なっていると感じており、海外で働く人々について知りたいと思うことがありました。この実習を通して、アメリカで働く人々と接することで、日本とアメリカのエンジニア、または両方の企業の違いを比較しながら世界で働くために必要とされることは何か、またどのようなことができなければいけないのかを考え、今後の学生生活において学ぶべきことを考え目標を定めるきっかけを作ることを目的としました。

3. 企業見学

企業見学ではオラクル社（図1）や Plug & Play、



図1 オラクル社

Google をそれぞれ見学しました。企業を見学したり、また食堂を利用させてもらうことでエンジニアたちのワークスタイルを知ることができました。企業スタイルや働く人々は日本では考えられないことが多くあり、驚きの連続でした。

4. 講演会

シリコンバレーで起業して働いている方やエンジニアとして働いている方の話を聞き、日本人の強みや日本のエンジニアが海外に出たときに求められることなどを考えることができました。講演者の中には私と同じ年で起業している方もおり、自分自身と比べると着目点や意識していることの違いなどが多くあり、衝撃を受けました。

5. 実習

5.1 企業概要

実習は The Way Auto Care という自動車整備会社にお世話になりました。そこは代表者が韓国系アメリカ人の方であり、整備士として働いていた従業員も同様に韓国系の方々でした。

5.2 実習内容

主な業務は整備された自動車の車内清掃と車外洗浄を任されました（図2）。また手の空いているときに整備士のアシスタントとしてオイル交換、タイ



図2 洗車した車

ヤ交換やブレーキパッドの交換、コントロールユニットのプログラムコードのチェックなどを教わりました。作業されている従業員の方々を見ることで、働いている時の様子や、それ以外のワークスタイルなどを見て学ぶことができました。

5.3 成果

私は実習を通して日本の作業場との大きな違いを発見することが出来ました。まず作業場にはベルのように時間を知らせるものがありませんでした。始業時間の9時になってもすぐに全員が一斉に仕事を始めることがなく、各自が自分のタイミングで9時ごろから仕事を始めていました。同様に仕事を終えるのも5時前後で各自がきりの良いタイミングで終えており、お昼休みや中休みの取り方も同様でした。私がいた作業場に時計が一つしかなく、それも作業現場でどこからでも確認できるものではありませんでした。さらに整備士の方々は時計をしておら

ず、あまり時間を気にせず作業しているように思えました。時間をあまり制限されないことで意識的に制限されていないことで働いている人はそれぞれのペースに合わせて働いていました。しかし時間にルーズになることはなく、遅くはじめ早く終わるなどという怠ける様子も見られず、きっちりと仕事をこなしていました。

以上のことにより、仕事中は集中して取り組み、休憩時間はしっかりと休むバランスをしっかりと保っており、また急かされるようなことはなく的確に仕事をこなしていました。あまりせかせかせずに働けるということは気持ちにも余裕ができるためか、作業場の雰囲気は常に明るく穏やかでした。

5.4 実習を終えて

実習を通してグローバルに働くために必要なことは3つあると考えました。それはコミュニケーション能力、考え方の違いを受け入れること、そして変化に対応することです。この三つが、企業での実習と企業見学から感じる事ができたグローバルに活躍するために必要なスキルです。

6. おわりに

実習を通してグローバルな人材になるために求められることを考えることができました。またそこから今後の将来設計を考えるヒントを得ることができ、私の人生経験において大きな糧になりました。

実習を受け入れていただいた The Way Auto Care 様、ならびにプログラムに携わっていただいた多くの皆様に御礼申し上げます。